

マルハナバチ類取扱い事業者との意見交換会 議事概要

出席者：

- (販売者) マルハナバチ普及会 (アリスライフサイエンス株式会社、東海物産株式会社株式会社、アグリセクト株式会社アグリ総研
(行政) 農林水産省生産局園芸作物課、環境省外来生物対策室

【概要】

「セイヨウオオマルハナバチの代替種の利用方針 (案)」について、意見交換を行った。

<主なコメント>

○セイヨウオオマルハナバチの利用の縮小について

- セイヨウオオマルハナバチ (以下「セイヨウ」という。) を減らすという方針については、そのつもりで準備をしておき問題はない。むしろ、具体的な数値目標がないとセイヨウの利用は減少しないのではないか。
- セイヨウの利用の増加を止めるためには、厳正な審査、違反者の取り締まりが必要である。
- セイヨウが完全にクロマルハナバチ (以下「クロマル」という。) に切り替わるだけの供給体制を整えるには、概ね3年程度を要する。
- クロマルの利用については、セイヨウと比較しても問題はない。
- セイヨウからクロマルに切り替えるに当たっては、一割程度の農家が、ビニールハウスにUVカットフィルムを使用していることに留意する必要がある。

○在来の代替種の利用方針について

- クロマルハナバチの利用方針については、特段の異論はない。
- 在来種の利用の際も施設にネットを展張するように指導している。農家の実態上も問題はない
- マルハナバチの不活化方法については、巣箱が使えなくなるまでハウス内に残置している状況があり、この部分の徹底の方が難しい。マルハナバチ普及会として、「使用済み巣箱をビニール袋に入れて蒸し込む」に統一することについては、検討する。
- 在来種への切替えへの補助制度については、既にクロマルに切り替えている人についても考慮して欲しい。

○代替種の開発について

- エゾオオマルハナバチの開発については、現在の北海道での利用量ではペイしないが、今後のマーケットの拡がりがあると考えている。

○その他

- クロマルの適切な利用方法を啓蒙するための資料に、マルハナバチ普及会の名称を連ねることに、問題はない。3者 (環境、農水、普及会) の方がよい。
- 海外で行われている使用済み巣箱の回収システムについては、利用状況の違いもあり、導入は困難である。

以上